

# 特集・逝ける映画人を偲んで

映画史に光彩を放った秀作の創造に大きく貢献し、近年（1973～74）惜しまれつつ逝去された内外の映画監督、ならびに俳優を偲んで、それぞれの代表的作品により生前の業績を回顧することとし、ここに「特集・逝ける映画人を偲んで」を企画開催いたします。

1974年6月20日～7月4日  
日曜・祝日休館

ひろく映画愛好者のかたがたの御鑑賞をおすすめします。

フィルムセンター

午後3時・6時15分上映開始  
一般100円・学生70円・小人50円

期日	曜日	題名	製作年	監督	出演者
6月20日	木	カルミネ・ガローネ『歌へ今宵を』	1933	カルミネ・ガローネ	ヤン・キープラ、マルタ・エゲルト、パウル・ケンブ（昭和11年封切）
21日	金	グレゴリー・コージンツェフ『新バビロン』（無声）	1929	グレゴリー・コージンツェフ レオニード・トラウベルグ	エレナ・クジミナ、ピョートル・ソボレフスキー（日本未公開）
22日	土	三島雅夫『花の吉原百人斬り』	1960	内田吐夢	片岡千恵蔵、水谷良重、三島雅夫、花柳小菊（昭和35年封切）
24日	月	J=P・メルヴィル『いぬ』	1962	J=P・メルヴィル	ジャン＝ポール・ベルモンド、セルジュ・レジアニ（昭和38年封切）
25日	火	菅井一郎『偽れる盛装』	1951	吉村公三郎	京マチ子、藤田泰子、小林桂樹、菅井一郎（昭26・キネ旬ベストテン3位）
26日	水	ジョン・フォード『アイアンホース』（無声）	1924	ジョン・フォード	ジョージ・オブライエン、マッジ・ベラミ（大正15年封切＝説明・羽鳥天来）
27日	木	アンナ・マニャーニ『無防備都市』	1945	ロベルト・ロッセリーニ	マルチェロ・パリエーロ、アンナ・マニャーニ（昭25・キネ旬ベストテン4位）
28日	金	森雅之『浮雲』	1955	成瀬巳喜男	高峰秀子、森雅之、岡田茉莉子（昭30・キネ旬ベストテン1位）
29日	土	マルク・アレグレ『乙女の湖』	1934	マルク・アレグレ	シモヌ・シモン、ジャン＝ピエール・オーモン、ロージュ・ドレアン（昭和10年封切）
7月1日	月	ローレンス・ハーヴェイ『年上の女』	1958	ジャック・クレイトン	シモヌ・シニョレ、ローレンス・ハーヴェイ（昭34・キネ旬ベストテン9位）
2日	火	浪花千栄子『彼岸花』	1958	小津安二郎	佐分利信、田中絹代、有馬稲子、浪花千栄子（昭33・キネ旬ベストテン3位）
3日	水	フランソワーズ・ロゼー『女だけの都』	1935	ジャック・フェデー	ルイ・ジュヴェ、フランソワーズ・ロゼー、アレム（昭12・キネ旬ベストテン1位）
4日	木	坂本武『浮草物語』（無声）	1933	小津安二郎	坂本武、三井弘次、八雲理恵子、坪内美詠子（昭9・キネ旬ベストテン1位）

**カルミネ・ガローネ**（1886・9・18～1973・3・11）1918年に監督として第1作『チラノの接吻』を発表し、以来イタリア映画界のセシル・B・デミルと呼ばれる程スペクタクル史劇映画「ポンペイ最後の日」「シピオネ」や、音楽映画「歌へ今宵を」「南の哀愁」「おもかげ」などを数多く監督しており、イタリアン・ネオレアリズモが登場するまでは世界に名の知られた唯一の監督でもあった。54年の日伊合作映画『蝶々夫人』の監督として日本でもなじみ深い。享年87才

**グレゴリー・M・コージンツェフ**（1905・3・22～1973・3・26）キエフに生まれレニングラード美術アカデミーに学ぶ。21年レオニード・トラウベルグと共に〈エクセントリック俳優工房〉を組織し奇矯な効果を狙う実験的演劇に熱中し、24年の「十月っ子の冒険」より独特の前衛的映画を作り始め、パリ・コムミュン・の戦いを主題とした28年の「新バビロン」を発表するに及び、一躍その名を知らしめた。35～38年の『マクシム3部作』で第一線監督として不動の地位を確立し、後年『ハムレット』（63）を世に出して、この種の映画の決定版として名声を博した。享年68才

**三島雅夫**（1906・1・2～1973・7・18）新潟生まれ。1927年小山内薫を訪ねて築地小劇場に入門し、以後新築地劇団、新協劇団、井上道場に参加し、戦後も新協劇団、劇団泉座を結成した。1956年に俳優座入りし、当り役に「東海道四谷怪談」の宅悦などがある。映画出演も多く、PCL「女優と詩人」の初出演以来、ねちっこい悪人や、がらりと変わった底抜けに明るい善人を演じて名パイプラー振りを発揮した。享年67才

**ジャン＝ピエール・メルヴィル**（1917・10・20～1973・8・2）本名はジャン＝ピエール・グリユンバックといい、パリに生まれる。第二次世界大戦から復員すると同時に、幼時から特に興味を示していた映画の製作のためメルヴィル・プロを設立、46年に短篇『ある道化師の24時間の生活』で注目を浴び、コクトーらの絶讃を受ける。フィルム・ノワールの新しい作家として確実にその地位を不動のものにして矢先で、その急死が惜しまれた。〔代表作〕『ギャング』（66）、「サムライ」（67）、「影の軍隊」（69）、「仁義」（70）、「リスボン特急」（72）。享年56才

**菅井一郎**（1907・7・25～1973・8・11）京都生まれ。1925年日活の「貧者の勝利」で映画界入りし、新興キネマ、東宝、第一協団等に参加して名パイプラーとして活躍。故溝口監督にその名演技をかわられて数多く出演し、54年には日活で「泥だらけの青春」の監督もした。なお60年の日活作品「霧ある情事」ではNHK映画コンクール・男優助演賞を受賞している。享年66才

**ジョン・フォード**（1895・2・1～1973・9・30）アイルランドからの移民の子としてアメリカで生まれる。海軍兵学校の入試に失敗してメーン大学に入ったものの、兄を頼ってハリウッド入りし、ユニヴァーサルの小道具係から俳優、助監督を経て、ハリィ・ケリー主演の西部劇を撮った。20年にフォックスに移って24年に「アイアンホース」で声価を高めた。トーキー以後34年「肉弾鬼中隊」、35年「男の敵」、39年「駅馬車」、40年「怒りの葡萄」等の作品で名監督としての地位を不動のものにし、西部劇の神様と謳われるようになった。男性的で力強い作風は祖国愛と人生に対する無限の郷愁に貫かれ、アメリカ映画界の記念碑的存在であった。享年78才

**アンナ・マニャーニ**（1908・4・11～1973・9・26）エジプトのアレクサンドリアに生まれ、父はエジプト人。ローマに移住して演劇を学び、その後レヴューガールとして各地を廻り、34年に映画界にデビューしたが、その後も軽演劇の舞台の方で次第に人気を得ていた。しかし戦後のイタリアン・ネオレアリズモの先駆的な作品「無防備都市」の名演技により、一躍世界的名声を得た。その後55年にハリウッドに招かれて「バラの刺青」に出演し、アカデミー主演女優賞を得て押しも押されぬ世界的女優となった。その情熱的な演技はまさにイタリア女性気質を表わし「フェリーニのローマ」でフェリーニが限りなき愛をこめてマニャーニを描いていたことは記憶に新しいところ。享年65才

**森雅之**（1911・1・13～1973・10・7）作家有島武郎の長男として東京に生まれる。1929年築地小劇場の初舞台以来、文学座、東京芸術劇場、民芸などに参加し、新派の花柳章太郎に師事したこともある。映画は38年東宝の「女の地図」で原節子と初共演し、「安城家の舞踏会」では毎日映画コンクール主演男優賞を受賞後、「破れ太鼓」「羅生門」「雨月物語」等で国際的名声を得、知性的な俳優として不動の地位を占めた。享年62才

**マルク・アレグレ**（1900・12・22～1973・11・4）スイス生まれ。1926年に叔父アンドレ・ジイドとアフリカのコンゴ旅行に出かけて長篇ドキュメンタリーを作った。34年の「乙女の湖」が出世作となり、それに主演したシモヌ・シモンをはじめ、ミシュール・モルガン、ジュラール・フィリップ、ジャンヌ・モロー、ブリジッド・バルドーらを相次いで世に出したことから、スター作りのうまい監督として有名である。代表作には『みどりの園』（34）『楽屋口』（38）『裸で御免なさい』（56）『黙って抱いて』（57）『パリジェンヌ』（61）など。享年72才

**ローレンス・ハーヴェイ**（1927・10・1～1973・11・25）ソ連邦リトアニアの生まれ。34年両親と共に南アフリカに移住し、その後イギリス陸軍に入隊して転戦し、奨学生として英本土に送られて王立演劇学校へ入学した。54年レナート・カステッラーニ監督の「ロミオとジュリエット」に主演し、一躍脚光を浴びた。演劇でもシェークスピア劇の主役を演じ、イギリスを代表する男優の地位を獲得、「アラモ」でアメリカ映画界に進出し、「バタフィールド8」（60）、「影なき狙撃者」（62）、「人間の絆」（64）、「ダーリング」（65）などで渋い演技を示した。享年45才

**浪花千栄子**（1907・11・19～1973・12・22）本名南口キノ。大阪生まれ。彼女の自伝「水のように」でもわかるように、破乱万丈の人生を浪速女の意地で生きぬき、いぶし銀のごときその名パイプラー振りは誰にも真似のできないものであった。戦後、NHKの「アチャコ青春手帖」や「お父さんはお人好し」の連続ドラマで人気を博し、63年第一回NHK放送文化賞を受賞。映画では53年「祇園囃子」（溝口）でブルーリボン女優助演賞受賞、54年から3年間国民映画女優賞、56年第3回京都市民映画祭女優助演賞と、日本では珍しい名コメディアンヌの一人であった。享年66才

**フランソワーズ・ロゼー**（1891・4・19～1974・4・2）本名はフランソワーズ・ド・ナレーシュでパリに生まれる。コンセルヴァトワールで演劇を学び、14年ジャック・フェデー監督と結婚する。語学に堪能なところから米・英・独・伊等の映画に数多く出演し、特にフェデー監督とのコンビによる「外人部隊」「ミモザ館」「女だけの都」＜女性3部作＞によって演技力を高く評価され、フランス映画界の押しも押されぬ大女優としての地位を築いた。67年11月来日し、テレビを通じて見た素顔の彼女は未だ記憶に新しいところ。享年82才

**坂本武**（1899・9・21～1973・5・11）兵庫生まれ。いわゆる＜喜八の＞映画の喜八の役のように、下町情緒の人物を演じては右に出るものではなく、いわゆる松竹蒲田映画特有の庶民劇の代表的演技者であった。故小津監督の作品の中では「出来ごころ」や「東京の宿」で庶民のユーモアとペーソスを見事に演じきって以後、没するまで幾多の作品で＜坂本調＞ともいえる演技を示した。享年74才